

2年1組 道徳科学習指導案

1 主題構成表

主題名 自分たちとちがっても

教材名 およげないりすさん

■内容項目 C 公正、公平、社会正義

自分の好き嫌いにとらわれなくて、接すること。

■価値の分析

一人一人が、誰に対しても分け隔てなく公正、公平に接することが、いじめや差別のない、みんなが安心して生活できる社会の実現につながる。小学校低学年においては、発達的な特質から、自己中心的な考え方をしがちで、自分の好みや利害によって公平さを欠く言動をとる姿が見られる。差別や偏見を持つことなく、集団や社会とのかかわりを持てるようになるために、低学年の段階から、相手の気持ちや立場、みんなと仲良くすることの大切さについて考え、好き嫌いにとらわれず、だれに対しても公平、公正に接することのよさを実感できるようにしたい。

■内容項目から見た児童の実態

(意識)

・明るく活発な児童が多く、休み時間には友達と誘い合って仲良く遊ぶ姿が見られる。また、困っている友達を助けたり、自分がその係や当番でなくても手伝ったりするなど、互いに助け合うことができるようになってきた。しかし、困っている仲間がいても、仲のよい友達だけを優先したり、自己中心的な言動をしたりする児童もいる。また、誰に対しても進んで助けたり、相手の立場に立って行動したりする児童はまだ少ない。その意識として、自分がやりたい、あまり話したことがない、仲良くない、自分とは違うからという意識がある。

(要因)

・自分の好き嫌いで行動してしまった時の、相手の心の痛みや仲間外れをされた人の心の痛みについて考えていなかったり、理解していなかったりする。また、仲間外れにせず、生活することのよさを感じていない。

■教材の分析

およげないりすさん

本教材は、「泳げる」あひる、かめ、白鳥が、「泳げない」という理由で、りすを仲間外れにしてしまうが、自分たちの言動の不正さに気づき、どうすればみんなと仲良く遊べるかを考える話である。

りすが3匹と一緒に島に行けなかった悲しみと、仲間外れにした3匹の居心地の悪さを、役割演技をすることによって、相手の気持ちを考えて受け止め、誰とでも分け隔てなく接することの大切さに気付かせる。

■ねらい

相手のつらい気持ちがわかって、みんなと仲良くすることの心地よさを感じ取り、違いを大切に誰にでも公平に接しようとする実践意欲と態度を育てる。

■展開の構想

- ・「なかよくする」とはどうすることかを考えさせる。
- ・導入場面で考えたことを意識させながら、教材を読むように促す。
- ・りすさんを仲間外れにしてしまった理由を考えることで、一緒に遊びたくない多様な気持ちを引き出す。
- ・島へ連れていってもらえなかったりすのつらい気持ちに共感させる。
- ・りすを連れていかなかったのに、どうして泳げないりすを連れていったのかを考えさせ、誰に対しても分け隔てなく接することの大切さをとらえさせる。
- ・かめとりすとのお話を役割演技をすることで、相手のつらい気持ちを考えて誘うことで、みんなとなかよくすると心地よいことに気付かせる。
- ・これまでの生活を見つめ、これからどのように生活をしたいか考えることで、誰に対しても、自分との違いや好き嫌いに関係なく、分け隔てなく接していこうとする気持ちを高める。

■判断力・心情・実践意欲、態度を高める工夫

- [中心発問] 「島へ連れていかなかったりすを連れていったのはどうしてか。」と問い、相手のつらい気持ちをかながえて、誘うことの大切さをとらえる。
- [学習形態] 中心発問の後に役割演技を位置付け、違いを受け止め、誰とでも分け隔てなく接することの大切さに気付かせるようにする。
- [言語活動] これまでの自分を見つめ直し、自分と異なる思いや個性について、相手の気持ちを受け止め、仲良くしようという意欲をもつことができるようにする。

■道徳性の高まりを見届ける体験活動の工夫

学校行事 運動会、人権集会 道徳「およげないりすさん」、 「雨ふり」

自分との違いや好き嫌いにとらわれず、個性を認め、誰に対しても分け隔てなく接していこうとする。

学習指導過程

	学習活動と予想される児童の反応	指導・援助
導入	<p>◇「なかよくする」ことについて考える。</p> <p>○誰でも仲良くできていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できている。 ・たまにできない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰でも仲良くできる」とはどういうことか、これまでの生活経験をもとに振り返らせる。 ・苦手なことがある子とでも、仲良くできるのかと指摘することで、深く考えるきっかけをつくる。
展開前段	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">みんなと「なかよくする」ために 大切なことを考え、そこからじぶんを見つめよう。</p> <p>◇教材「およげないりすさん」を読んで話し合う。</p> <p>○かめさんがりすさんにしたこと「よくないな」「いいな」と思ったところはどこでしょう。</p> <p style="text-align: center;">(人間理解と価値理解)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「泳げないからだめ。」と言ったのはいけない。 ・かめさんが、背中にりすさんをのせたのは、いい。 ・きのうのことを「ごめんね。」と言ったところ。 <p>○かめは、どうして「りすさんは泳げないからだめ。」と言ったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島に行けないから遊ぶのは無理。 ・遊べるのは泳げる人だけ。 ・三人で遊ぼうと思っていたのに、面倒だな。 ・みんなも言っているから。 ・りすさんを連れていくと時間がかかる。早く島へ行って遊びたい。 <p>○りすさんは、一緒に行けなくて、家でどんなことを考えていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行きたかったのに。つらい。かなしい。 ・どうして、ぼくだけ仲間はずれにするの。 ・もう、みんなとは遊べないのかな。 ・もう、外に出るのはやめて、家にいよう。 <p>◎泳げないからだめと言っていたのに、どうして、かめさんは、りすさんを背中にのせて島へ連れていったのでしょうか。</p> <p>①りすさんがいないと楽しくないから。</p> <p>②りすさんがいないと心の中がもやもやしているから。</p> <p>③りすさんが、つらかったことがわかったから。</p> <p>○りすさんは、かめさんの背中にのりながら、みんなでどんなことを話したのだろうか。</p> <p>【役割演技】りす：教師 かめ：児童</p> <p>りす：みんな、最初は誘ってくれなかったのに、今日はどうしてぼくを誘ってくれたの？ぼく、泳げないよ。</p> <p>かめ：みんなと一緒に遊ぶほうが楽しいから、泳げないりすさんを背中にのせたんだよ。</p> <p>りす：きのう、連れていってくれなかったから、ぼく、家に帰って泣いていたんだよ。</p> <p>かめ：りすさんの気持ちも考えないでごめんね。</p> <p>りす：でも、きょうは連れていってくれるから、とてもうれしいよ。かめさんは今、どんな気持ちなの？</p> <p>かめ：りすさんが喜んでくれているし、みんなで遊べるから楽しみだな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「よくないな」(人間理解の場面)、「いいな」(価値理解の場面)の観点に着目して物語を聞くように促す。 ・りすさんが泳げないことを理由に、3匹が仲間にいれなかった状況を確認する。 ・多様な考えや気持ちを引き出し、自分はどの気持ちが強いかに気付かせる。(自分とのかかわり) ・キーワードをもとに、板書で整理し、仲間の気持ちがよくわかるようにして、比べることができるようにする。(他者理解) ・いじめられているりすの気持ちに深く共感させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【補助発問】</p> <p>★これが毎日続いたら、りすさんは、どんな気持ちになるでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間外れにすると、すっきりしない気持ちになることに共感させる。 ・役割演技によって、仲間外れをしなければ、みんなが心地よくなることを感得させる。 ・自分とちがうことは「いけない」のではなく、相手の気持ちを考えて、受け止めてあげることの大切さに気付かせる。 ・課題に立ち返り、「みんなとなかよくするためには」と問うことで、できないことやちがいを認め、その子の気持ちを考えて、誰とでも分け隔てなく接したいという思いを持つことができるようにする。
	展開後段	<p>◇自分の生活を振り返る。</p> <p>◇これまでに、友だちとどのように仲良くしてきましたか。その時、どんな気持ちになりましたか。(助け合ったり、認め合ったりしている日常の児童の様子を写真で見せる)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分見つめの視点</p> <p>・今日の学習で学んだこと ・これまでの自分 ・今思うと</p> </div> <p>◇発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「遊びに入れて。」と言われたから、「いいよ。」と言って、一緒に遊んだ。 ・「教えて。」と言われて、どうしようか迷ったけれど、「わかったよ。」と返事をして優しく教えた。 <p>◇教師の説話を聞く。</p>
終末	<p>◇教師の説話を聞く。</p>	<p>（変容の見届け）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と異なる思いや個性について、相手の気持ちを受け止めることが難しかった児童が、みんなとなかよくする心地よさを理解して、誰にでもやさしくしようという気持ちをもつことができたか。